

# 昔ばなし資料観

新潟県を基に

矢口裕康

## 目次

昔ばなし資料観——新潟県を基に——	四八
新潟県昔話資料史	五〇
水沢資料の検討	五一
水沢謙一資料の検討	五一
おわりに	五一
分布図	五四

昔ばなし資料観 — 新潟県を基に —

矢 口 裕 康

私たちは、すぐこの地域の話にはこのような特徴がみられるという表現を使う。そこという地域とは、県単位であったり市町村単位であったり、また地区であったりさまざまであるが、ここでいう地域的特質とは、はたして何なのか。この疑問は、その地域から生み出された資料も、その地域の実態を描ききれているか疑問であるという発想もあつてのことである。

地域を語る場合、自己の採集資料と共に、既刊のさまざまな資料も検討材料としてのまな板にのせられるであろう。そのさい、その資料とは何なのかを考えられなければならないだろう。このことも含めて、昔話資料に対する一所感として、本稿をまとめてみた。

この稿をすすめるにあたって、現在まで一番採訪回数が多い新潟県を、考える一つの場としたい。新潟県は、言うまでもなく全国有数の昔話採集地とされている。しかし、その現実にはたして、その言葉どりのりなのかという点からも検討してみたい。

新潟県における調査現状を、まず49の既刊資料集を基に、調査書・調査地域等にふれながらみていくと、表①のようになる。

(形態)

新潟県では49の既刊の資料集が確認できた。内分けは、集団調査が11点で、それ以外38点が個人の手による個人調査資料である。ここに

表① 新潟県昔話資料の現状  
 ①地域昔話集 ②伝承者の昔話集 ③伝播者の昔話集  
 ④一つの昔話の型の昔話集

年代	年代別	(主な)個人調査	集団調査	資料集の形
昭元 9	1	① 1		①
10 19	5	② 2 ① 1		②
20 29				③
30 39	10	③ 7	3	④
40 49	24	④ 10 ⑤ 2 ⑥ 2	5	
50 54	9	⑦ 4 ⑧ 1 ⑨ 1	3	
計	49	31	11	

※注① 岩倉市郎 ② 鈴木棠三 ③ 水澤謙一 ④ 佐久間惇一 ⑤ 野村純一  
 集団調査 ↓ (大学・高校・中学・青年学級)

いう集団調査とは、いわゆる大学・高校・中学校・青年学級等の単位で調査し、まとめられたものである。(表②参照、以下の番号は表②のものである) 12・13・14・24の『つまりの民話』十日町青年学級、43『民話の語り手たち』民話と文学の会、46『越後下田郷の昔話』の中学校、20『ふるさとをたずねて』22『五泉の民話』29『民話—水原周辺—』の高校、17『岩船地方昔話集』41『牧村昔話集』の大学によるものである。それ以外はすべて個人調査へ選別した。

この個人調査で、二点以上編んでいる研究者をあげると、戦前では

岩倉市郎氏と鈴木棠三氏、戦後では、水沢謙一氏の21点の資料の他に、野村純一氏、佐久間惇一氏をあげることができる。これらの研究者による資料が、49点のうちの31点ということで注目に値する。特に、水沢氏の21点は圧巻である。新潟県の資料の一側面、いやそのものとみられても、うなずけるような資料数である。

次に問題となるのは、それでは、これらの調査資料がどのような質をもった資料であるかということである。

表②の中でAに、①から④の選別をしたものが一つの目安となろう。①はいわゆる地域資料集である。栃尾市・長岡市・小千谷市等の市単位、二十村郷・南蒲原郡等の郷郡単位のものゝをさす。最近は39『新潟の昔話』のように、新潟県昔話集成のような類のものも編まれている。一応、ここでは、このような形の資料までも、この中に含んでみた。

②は、ある一人のすぐれた語り手を中心にして編んだ昔話集である。水沢氏の8・10・18・23・48・49等であり、他にも野村氏の19・27や丸山久子氏の26等も、この類に含まれるものであろう。言わゆる“語り手論”を考える基本資料といえよう。

③は、宗教的遊行者、旅芸人、旅商人、旅職人等の、地域と地域の伝承のかけ橋的存在となる、伝播者に対する聞き書きを中心とした資料集である。岩瀬博氏による高田警女・杉本キクエ嬢による資料集（42）や、水沢氏の44の資料である。水沢氏の資料は、杉本嬢のみならず、長岡警女・中静ミサオら警女の話とともに、下条登美・池田チセ・佐藤勇吉ら、警女の話聞いた“聞き手”の側の資料や、警女が登

場する昔話なども指摘し、既成の資料集にない独自の形を提示している。

④の資料は、ある一つの昔話の型を集成した資料集である。これも、水沢氏による「三枚の護符」（集成番号240）を集成した、31・32の資料である。31は栃尾郷、32は上・中・下越地方と県下全域を扱っているものと、地域的拡がりには違うが、この種のものも編まれている。

このように、資料集の形態一つとりあげても、多岐なものとなつていく。このことは、昔話の宝庫といわれる新潟県だから、あらわれた結果ともいえようが、今までの昔話研究は、これらの資料の吟味をまったく無視した上でおこなわれてきたといつても、言いすぎではないだろう。

#### （地域）

それでは、これらの現状をふまえて、昔話集の編まれている調査地を検討してみたい。新潟県図をみてもらえばわかるように、ほぼ県下全域に調査がゆき届いているように思われている調査地点も、じつは下越地方に集中し、かなりの空白地帯をみいだすことができる。また、地点をうったところも、調査形態等の違いからも、一様にとらえられないのは明白である。

すべての地に調査の手が加えられていると思われがちなこの新潟県においても、量的なものはあるとしても、地域的拡がりというところは疑問視せざるをえない。他県においては、このことは、もっと顕著なものといえよう。

ただ、資料の質、純度の高い昔話が聞け、かつ、それを基にした資

表② 新潟県昔話資料史

A、表①・①～④資料集の形・B、『日本昔話名案』  
 (○)『日本昔話集成』(△)使用資料

25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1				
新町のむかしばなし	つまりの民話(集大成)	赤い聞耳ずきん	五泉の民話	雪国の夜語り	ふるさとをたづねて ―栃尾市塩谷地区昔ばなし集―	吹谷松兵衛昔話集	おぼばの昔ばなし	岩船地方昔話集 (伝承文芸3)	越後のシンデレラ	栃尾郷昔ばなし集	つまりの民話	―あやチュウチュウ こやチュウチュウ―	つまりの民話 ―アンボころりん―	いきがポーンとさけた つまりの民話 (1)	とんと一つあったてん がな	とんと昔があったけど 第二集	とんと昔があったけど 第一集	昔あったてんがな ―宮内昔話集―	南蒲原郡昔話集	佐渡昔話集	あつたとさ	佐渡昔話集	佐渡のむかしばなし	加無波良夜譚	文野白駒 (岩倉市郎)	発行年(調査年)	調査地	
水沢謙一	越路新報社	水沢謙一	県立村松高校 社会クラブ	水沢謙一	栃尾高上塩 分校文芸部	野村純一	水沢謙一	国大民俗文学 研究会	水沢謙一	水沢謙一	つまりの民話刊行会	十日町市公民館	十日町青年学級	水沢謙一	水沢謙一	水沢謙一	水沢謙一	水沢謙一	岩倉市郎	鈴木棠三	山田貢	鈴木棠三	不苦楽庵	(岩倉市郎)	S 7			
S 44	S 44	S 44・ $\frac{2}{25}$ (S 40~44)	S 43	S 43・ $\frac{4}{15}$ (S 32~42)	S 42ごろ	S 42・6 (S 39・ 8)	S 41・ $\frac{1}{20}$ (S 40・5~41・8)	S 39・8 (S 39・8~40・1)	S 39	S 38・ $\frac{8}{10}$ (S 33~36)	S 36	S 34	S 33	S 33・ $\frac{1}{20}$	S 33・ $\frac{5}{15}$ (S 30~32)	S 32・ $\frac{1}{25}$ (S 30~32)	S 31	S 18 (S 6~7)	S 17・7	S 17・6 (S 52再刊)	S 14	S 12	S 7					
長岡市新町	十日町市・中魚沼郡	長岡市麻生田町	五泉市		栃尾市わらび谷・二日町・能袋・入塩川・葎谷 九川・天平・二ッ郷屋	栃尾市吹谷	長岡市西蔵王町2丁目	岩船郡山北村・朝日村・神林村・荒川町 関川村・北蒲原郡黒川村・中条町・村上市	栃尾郷	十日町市・中魚沼郡	十日町市・中魚沼郡	十日町市・中魚沼郡	十日町市・中魚沼郡	長岡地方の中央部・周辺部	見附市下関町・長岡市深沢町	二十村郷の長島ツル以外のもの	古志郡山古志村字虫亀(長島ツル)	長岡市宮内町	見附町・森町村邊場・葛巻村葛巻。大面村 山王・新潟村白町・今町在三井	相川町片辺 多田	古志郡四郎丸村大字上条生れ(山田晃子)							
		2	1	1	1	2	2	1		1				1	2	1	2	1	1	1	2	1		1	A			
																△	△	△	△	△○	△○	△	△○	△○	△○	B		

④9	④8	④7	④6	④5	④4	43	④2	41	40	③9	③8	③7	③6	③5	③4	③3	③2	③1	③0	29	②8	②7	②6
—無形の民俗文化財記 録第4集—	おぼばの夜語り —新潟の昔話—	栃尾郷の昔ばなし —栃尾市史料集 (第14集)—	越後下田郷の昔話	鶴女房—佐渡の昔話—	瞽女のごめんなしよ昔	民話の語り手たち	瞽女の語る昔話	々々牧村昔話集 牧村昔話集・続 牧村昔話集	雪国のおぼばの昔	越後の昔話	北蒲原昔話集	越後黒姫の昔話	いちごさけもうした (一〇)	犬に喰われた嫁 —巻町双書第19集—	絵姿女房 —越後の昔話—	ふるさとの夜語り	黒い玉青い玉・赤い玉	栃尾郷の三枚の札	雪国の民話	民話—水原周辺—	ろばたのトントムカシ	馳女房(吹谷甚平の昔話)	佐渡国仲の昔話
野村純一(㉔) 佐久間惇一(㉕)	水沢謙一	水沢謙一	下田村立鹿峠中 学校	浜口一夫	水沢謙一	民話と文学の会	岩瀬博	研究会	水沢謙一	小沢謙一	佐久間惇一	真鍋真理子	丹野裕子	伊藤太郎	佐久間惇一	水沢謙一	水沢謙一	水沢謙一	中村和二郎	水原高・社会部	水沢謙一	野村純一	丸山久子
	S 53・%	S 52・% (S 35 ~ S 52)	S 51・%	S 51・%	S 51・%	S 50	S 50 (S 47・2 ~ 49・1)	S 50	S 49	S 49・% (S 47・48)	S 49・6 (S 23 ~ 25)	S 48 (S 46・5・47 3・8・10・48・2)	S 48・% (S 46・8 ~ 47・2・8)	S 48・%	S 48・% (S 29 ~ 47)	S 47・% (S 26 ~ 45)	S 47・% (S 35 ~ 47)	S 46・% (S 30・4 ~ 37・3)	S 46	S 46・% (S 46 ~ 47)	S 45・7	S 45・% (S 28・% ~ 29 ~ 34)	S 45・% (S 28・% ~ 29 ~ 34)
①(㉔) 羽茂町本郷(藤井鹹三・M 31・%生)	南蒲原郡中之島村池之島生れ(安藤マス)	栃尾市全域	南蒲原郡下田村全域	佐渡郡	佐渡外海府	佐渡外海府	高田市本誓寺町(杉本キクエ・M 31・%)	東頸城郡牧村		県全域	北蒲原郡川東村下羽津・小戸・上三光・宮古木・虎丸 赤谷村上赤谷・滝谷・新発田市赤竹町	女谷・宮原・駒の間・市野新田・折居餅粮・拝庭・北向 上向・阿相島	六日町五十沢村原・舞台・清水瀬・二日町・津久瀬・ 宮・小川・美佐島・西泉田	西蒲原郡巻町角野浜・五箇浜・越前浜・福井稲島・峰 岡・平沢・鷲の木・竹野町・仁箇・松山・松野尾・巻	新発田市上荒沢・菅谷・虎丸・下高関・小戸・大月・ 桑ノ口・東新町・北蒲原郡豊浦村切梅	長岡市	上中下越地方	栃尾郷	津南町谷内・赤沢・川西町高倉・十日町市・高山・下 条仙の山・城之古・市島・中里村・白羽毛	水原町	小千谷市	栃尾市吹谷(桜井よし・M 42・%生)	畑野村(岩井キサ・当時82才)五十浦・ 真更川・北鶴島・願
1(㉔)	2	1	1	1	3		3	1		1	1	1	1	1	1	4	4	1		1	2	2	

※注 昭和55年4月現在・筆者自身が確認した資料である。検討もれのあるであろうことを一言ことわっておく。

表③ 水沢謙一資料の検討

(M男・W女)

調	査	地	域	話	数	話	者	数	そ	の	他
8	古志郡山古志村字虫亀			130	W 1				長島ソル(M元%)		
9	長岡市濁沢・蓬平・竹之高地・小千谷市小栗山・朝日・首沢・南荷頃・蘭水・塩谷・峠・十二平・北魚沼郡木沢・古志郡山古志村種芋原・寺野・桂谷・池谷・大久保・檜木・竹沢・梶金・小松倉			134	46 (M 12 W 34)				長岡市や小千谷市からみて近い順配列		
10	見附市下関町(石田ミヨ) 長岡市深沢町(笠原松雄)			120 (M 50 W 70)	2 (M 1 W 1)						
11	越路町浦・岩田・楨山町・深沢町・巻島町・上除町・十日町・六日市町・片田町宮内町・浦瀬町・富島町・新保町・天神町・黒津町・百束町・千手町・成願寺町中島町・王蔵院町・坂之上町・神田町・新町・檜吉町・西片貝町・東片貝町千代栄町			135	36 (M 8 W 28) 農村の人 27 中央部 9				小野塚 キタ (越路町浦)		
15	栃尾市軽井沢・一之貝・北荷頃・比礼・本津川・土ヶ谷・西野俣・森上・半蔵金 新山・赤谷・小向・栃堀・菅畑・下来伝・田代・木山沢・西中野俣・吹谷・栗山沢・葎谷・わさび谷・本所・入塩川・二日町・下塩谷・ニッ郷屋・下檜出・大町			101	47 (W 39 M 8)				家・村・旅のムカシカタリ		
18	長岡市西蔵王町(池田チセ・M 24・2・5生レ)			140	W 1						
22	岩船のはてから頸城のはてまで			206	112 (M 23 W 89)				高野アサ		
23	長岡市麻生田町(下条登美・M 37・10・27生レ)			251	W 1				宮路ヒロ		
28	小千谷市三仏生・塩谷・小栗田・本町・首沢・冬井・片貝・十二平・孫四郎・市之沢・南荷頃・首沢・北山・芹久保・外之沢・蘭木・池津・牛が島・小栗山・大崩・市川町・池之平・若栃・朝日・真人町三木明・岩間木・木津			75	74 (M 8 W 66)						
31	栃尾市軽井沢・一之貝・比礼・本津川・土ヶ谷・北荷頃・西野俣・木山沢・中村西中野俣・東中野俣・新山・森上・半蔵金・田代・宮沢・大河戸・天ヶ島・栃堀赤谷・菅畑・小向・栗山沢・上檜出・二日町・わさび谷・本所・入塩川・梅野俣平中野俣・金沢・旭町・東町・新町・栃窪			75	74 (M 8 W 66)						
32	東頸城郡・中頸城郡・高田・糸魚川・直江津・柏崎市・長岡市・栃尾・小千谷三条・見附・加茂・十日町市・寺泊町・出雲崎町・南蒲原郡・古志・北魚沼中魚沼・南魚沼郡・村上・新潟・新津・白根・五泉市・新発田市・北蒲原・中蒲原・西蒲原・東蒲原郡			132	122 (M 17 W 105)				波多野よすみ 池田チセ 下条登美 高野アサ		
33	成願寺町・千代栄町・中沢町・お山町・榎吉町・東片貝町・西片貝町			100	19 (M 4 W 15)						
39	県下全域			85	68 (M 21 W 47)						
44				100							
48	南蒲原郡中之島村池之島生れ19の年に古志郡黒条村字高見(現長岡市高見町)へ嫁入(安藤マス・M 34・10・18生レ)			72	W 1						
47	菅畑・新山・本所・西野俣・西中野俣・谷内・小向・入塩川・上檜出・赤谷・半蔵金・わさび谷・泉・東中野俣・森上・上来伝・吹谷・寒沢・梅野俣・松尾・木山沢・森上・下檜出・軽井沢・天平・北荷頃・栃堀・比礼・東中野俣・栃窪下塩谷・一之貝・二日町・中村・平中野俣・熊袋			102	71 (W 47 M 24)						
49	④ 長岡市蓬平町(中村タケ・M 28生レ) ⑤ 安藤マス			20	W 2						

料集が編まれていることは事実である。

### (水沢資料の検討)

次に、この新潟県の昔話集の代名詞のような水沢謙一氏の、昔話資料集作りおよび昔話集についてふれておきたい。

水沢氏の資料は、私のしりうる限りでは21点確認できる。この中で検討したのは17点であるが(表③参照)、資料集の形としては、前述した四つの形態すべての形が編まれている。というよりも、水沢氏の資料集は、これらを意識的に編んだものとして、先駆的な意義を認めざるをえない。

調査範囲をみると、県下全域であるが、地域地域の濃淡はいなめない。これは、個人調査ということもあつていたしかたないことである。

このような中で、水沢氏は現在まで、どのような意識をもって調査・資料化したかということである。39『越後の昔話』はしがきの中で、次の四点を述べている。

現在越後の昔話採集では、私などの微力を奮っているのは

- (1) 越後全体に昔話のタイプがどれほどあるか。
- (2) ある集中採集地域では昔話のタイプがどれほどあるか(たとえば、栃尾市、古志郡、長岡市、新津市、魚沼三郡などを現在平行)
- (3) あるすぐれた一人の伝承者がどれほどの昔話を持ち伝えているのか(現在三百話クラスの伝承者の昔話を整理)
- (4) ある一つの昔話の個別研究をいくつかかかえて、越後の各地を歩いている。

この四点の指摘に、水沢氏の資料に対する考え方が如実にでてい  
と思われる。

たしかに、初期における9『とんと昔があつたけど第二集』や11『いきがポーンとさけた』15『栃尾郷昔ばなし集』等の仕事は、前述の②にあたるものといえよう。しかし、これらの資料の中にも、④の三枚の護符・糠福栗福・姥皮・夢買長者・産神問答・見るなの座敷等の、特定の昔話を中心に集め、採録するという傾向がみられる。

また、③の形としては、8『とんと昔があつたけど』の長島ツル、10『とんと一つあつたてんがな』の石田ミヨ・笠原松雄、『おばばの昔ばなし』の池田チセ、『赤い聞耳ずきん』の下条登美、『おばばの夜がたり』の安藤マスと、一人の伝承者のすべての語りを網羅するような資料作りもみられるのだから、一概にはいえぬが、④のような特定の話への興味が強いように感ずる。

資料集を編むということは、当然編者の意識の反映があるのだから、このようなことは不自然とはいえない。しかし、新潟県の昔話を把握する上で、全資料の半数近くを、水沢氏の資料がしめていることから、以上のようなことを認識しておく必要がある。

このような種々の形態・質・意識をもった昔話集は、また、物理的な時間にも一つの隔たりがあることをも忘れてはならないだろう。

それは、表①にみられるように新潟県の資料は、昭和二〇年以前六点、昭和三〇年から三九年一〇点、昭和四〇年から四九年二四点、昭和五〇年から五四年九点ということである。とくに、昭和三〇年から三九年の間は、水沢氏の資料が、そのうちの七点をしめ、かなりの比重を

もっていることを見逃してはならない。

そして、さらに気を付けなければならないことが二点ある。

第一点としては、その資料の編まれた年代である。発行年即調査年であることは、どう考えてもありえない。調査年のわかる限り、表②の中に明示しておいたので参照してほしい。また、もう一点として、その中に編まれている語り手の存在をみておきたい。一・二とりあげてみると、『どんと昔があったけど第一集』は、昭和三年一月に発行されている。調査年代は昭和三〇年から三二年で、またその対象となった語り手は、明治元年七月五日生れの長島ツルである。この資料の話を、昭和三〇年初頭の昔話として認定すると共に、この昔話の生きていたもう一つの間も設定できることを忘れてはならない。そのもう一つの間とは、長島ツルが、これらの昔話を七・八歳のころから、生家二十村郷朝日村の原田家の孫爺、孫婆さんから聞いたということである。そして、一八・九歳の時、原田家より山古志村虫亀の長島家に嫁いできたのである。水沢氏の「序―長島ツルさんの昔話―」から、これらの点をくみとることができるが、可能性として、嫁入り後長島家で聞いた昔話の存在も考えられる。この時八九歳であった長島ツルの昔話は、明治七・八年の時点においても当然、昔話として生き機能していたであろうということである。

これらのことをふまえて資料を読むのが、その資料のもつ時をおさえたものといえよう。また、幸いなことに、『どんと昔があったけど第一集』として、長島ツル以外の二十村郷の昔話も編まれていることから、もつと実像化したその地域の伝承存在を描き出すことも可能なかげである。

(おわりに)

私は、以上のことをふまえて、はじめて一つの資料を比較しえると思う。今まで行なわれてきた昔話研究では、このような資料の扱い方がなされていなかった上での錯覚も、多分にあるように思えてならない。

このような資料のもつ時をふまえた上で、その地域を問題としたい。また、もう一点のことを考えた上での資料選択をしてみたい。それは、伝播の把握可能な地点での比較検討ということである。

例えば、祝いごと、死にごとの際の大きな買物をするのはどこか、どこから魚とか塩や箕・箒等の物売りが来たか、どの峠、どの道を通って座頭・瞽女・祭文のような旅芸人が来たかというような把握のできる地点である。新潟県の場合は、高田瞽女・長岡瞽女等の存在を無視しないことから、このことは重要である。コトバとしてだけの伝播者ではなく、実際に機能したものとしての伝播者の把握である。

『瞽女の語る昔話』『瞽女のごめんなんしよ昔』、斎藤真一氏（『瞽女―盲目の旅芸人―』）、鈴木昭栄氏（『瞽女の民間信仰』）、長岡瞽女の組織と生態」等の瞽女研究もあり、伝播者の実態を描き出す恰好の地といえよう。

これら、さまざまな観点からの資料検討をした上で、地域を考えるところから、昔話の存在を明らかにできるだろう。

資料をその額面どうり読むのではなく、その資料を自己の資料として再構成し、その上での研究でなくては、昔話研究の眞の展望は切り拓かれないであろう。



現在、日本口承文芸学会も設立され、昔話研究の国際的視野にたった研究の必要性が、盛んにいわれている。その時、自己の地点をよりふまえた研究がなされないと、大きな錯覚を生みだしてしまうように思えてならない。

付記・この小稿は、昭和五十一年二月四日、国学院大学にて口頭発表したものに、加筆訂正したものである。

# 分 布 図

